

# TOSAIBOTIMES

2007年5月25日発行  
編集者：TOSAIBO TIMES 編集委員会  
発行者：上原 泰男  
東京災害ボランティアネットワーク  
〒164-0011 中野区中央 5-41-18  
東京都生協連会館 3階  
tel:03-3380-1614 fax:03-3380-1615  
E-mail:office@tosaibo.net

## 2007年度「東京災害ボランティアネットワーク総会」を開催します

きたる2007年6月9日(土)に2007年度東京災害ボランティアネットワーク総会を開催します。

会場は、東災ボ事務局がある東京都生協連会館。総会記念講演には専修大学文学部教授であり、災害図上訓練や防災まちづくりの専門家でもあられ、東災ボ設立の際に多大な協力をいただいた大矢根淳さんをお招きし、「その時!!わたしたちはいかにあるべきか!?!～大災害時のわたしたちに求められる協働の役割～」というタイトルでご講演いただく予定です。

数多くの参加団体がある東災ボですが、一堂に会する機会はそれほど多くはありません。是非とも多くの方々に出席いただき、2006年度の東災ボの活動を知っていただくと共に、2007年度の活動を共に取り組んでいくきっかけになればと考えております。もし、ご出席が難しい場合は、事前に配布される議案書(案)をご覧になり、ご意見をいただければと思いますので、よろしくご願ひ申し上げます。

東京災害ボランティアネットワーク事務局 福田

東海地震・東南海地震、宮城県沖地震、そして首都圏直下型地震の発生が危惧されて数年が経とうとしています。いよいよ本格的にこれらの災害に具体的に備える時がきたのではないかと感じています。中央防災会議でも、要援護者避難の課題や、防災活動を国民運動へ促していく動きが活発になっています。

東京災害ボランティアネットワークは1998年の設立以来、多くの団体・組織が大規模災害発災の「その時」を見据え、お互いに連携・協働できる環境を作り、そして具体的課題に対し、災害前から取り組むことを念頭に置いて各種の事業に取り組んできました。

2006年度はNPO法人格取得に向けた具体的準備に取り組むと同時に、自らの事務所を構え、これまで以上に大規模災害への備えを多くの皆様と充実させていくことを、改めて感じる年となりました。

2007年度は、東災ボ参加団体の皆様はもとより、関係機関・団体の皆様と、より深くより具体的な連携・協働事業に取り組んでいきたいと考えております。

年一度の総会ではありますが、参加団体の皆様と顔を合わせ、様々な意見を交換できる場になることを願っております。

東京災害ボランティアネットワーク  
代表 山崎美貴子

### 2007年度東京災害ボランティアネットワーク総会

日時：2007年6月9日(土)10:30～15:00

10:30 総会記念講演

13:30 総会議事

場所：東京都生協連

15:30～17:00 で懇親会を実施  
いたします(参加費 1000円)

### 東京災害ボランティアネットワーク事務局

〒164-0011 中野区中央5-41-18 東京都生協連会館3階

tel:03-3380-1614 fax:03-3380-1615

E-mail:office@tosaibo.net



## 三宅島噴火災害被災者支援事業から学ぶ 「三宅島現地研修会」のご案内

### 趣旨

日本の災害ボランティア史に新たなページを開いたと評価される三宅島災害・東京ボランティア支援センターの被災者支援事業は、どのような思いで取り組まれ、どのような方々に支えられて、この長期にわたる事業が成し遂げられたのでしょうか。

2000年9月からの全島民島外避難を経験し、2005年2月の暮らしの再建へ続く、島民帰島期までの全5年を超える支援事業の全容を振り返り、多くの方々と共に学び歩んだこの事業の特徴とその成果を、今、三宅島の自然の中で暮らす島民の方々と深い交流を含めて多くの方々と共に学んでみたいと思います。

また、今回の研修会は、平日型と週末型の2通りをご用意いたしました。ご都合の良い日程を選択してご参加くださることを希望しています。



昨年度は多くの団体が団体ごとに三宅島を訪れ交流を図った

名称：三宅島噴火災害被災者支援事業から学ぶ  
「三宅島現地研修会」

日程：(7月5日(木)夜出発)

2007年7月6日(金)～7月8日(日)

場所：宿泊は民宿となり、研修は島内関連施設・みやげしま<風の家>

対象者：三宅島災害・東京ボランティア支援センター参加団体、および帰島支援事業参加メンバーを中心とし、その他関係団体も可  
(各回20名を目処とする)

プログラム：・被災地三宅島島内視察プログラム  
・事業全容報告とディスカッション  
・島民交流プログラム  
・参加者交流プログラム 等

参加費用：1名40,000円

内訳 渡航費、宿泊費、食費、視察バス貸切費、講座研修費

尚、詳細は別紙発行される「三宅島現地研修会」のご案内をご参照ください

## 東災ボ活動案内

### 2007年度帰宅困難者対応訓練のご案内

2000年を境に首都圏は地震活動期に入ったといわれ、M7.0クラスの直下型地震が発生する可能性が高まっているといわれる首都圏。多くの関係機関は被害想定を含め、様々な対策を講じ始めています。とりわけ、世界でも稀な人口が集中している首都圏にあって、地震発生直後の交通機関途絶による帰宅困難者の課題は、とても大きな課題といわざるを得ない状況となっています。

この課題は、中央政府および地方政府内においても重要な課題として認識され、更には民間企業・事業主においても注目される課題であります。現在、中央政府では、首都圏で最大650万人にも上るといわれている帰宅困難者そのものを発生させない、つまり帰宅困難な状況にならないよう、各企業や学校の施設に一時的に収容するよう呼びかけています。しかし、650万人といわれる数を考えた時、一時的な収容だけでは解決しないことは自明であり、中央防災会議内でも「帰宅困難者を今後10年で330万人まで減らす」ことを目標に掲げており、それが10万人以下になることは現段階では難しいといわざるを得ません。

現在、様々な形で帰宅困難者課題に対応する訓練は実施されていますが、首都圏という広域な課題であるにも関わらず、そのいずれもが地域限定的な訓練・種別的な訓練にならざるを得なくなっています。結果、発災直後の市民の行動選択や、市民・企業・交通機関・行政とそれぞれ多様な主体の役割が不明確なままとな

っています。

巨大地震の発生が首都圏においても予想される時、上記の現状を深く認識し、首都圏への通勤者・通学者をはじめ、多様な市民の共通の課題となる帰宅困難者対応訓練の実施は重要課題といえます。より具体的な訓練の実施を通じて、多くの市民各層の中に防災意識の向上を呼びかけ、市民・企業・行政等多様な主体の連携と協働によって、帰宅困難者対応訓練を実施します。

今回の訓練は、これまでの1方向から4方向に拡大して実施する予定です。訓練規模、社会的影響もこれまでとはまったく変わってくると考えられます。東災ボ独自企画ではなく、多くの関係機関と連携した実行委員会方式で訓練実施をしていきます。

(1)実施期日：2007年10月中

(2)実施コース：距離にして20km以内程度 4コースの同時実施を提案いたします

東京 千葉コース、東京 埼玉コース  
東京 神奈川コース、東京 多摩コース  
東京出発候補地：日比谷周辺

(3)参加人員：徒歩帰宅訓練 8000名 沿道支援 2000名

(4)実行委員会の設立：2007年6月を目処に準備する

(5)事業財政：実行委員会での公募方式

(6)その他：実行体制企画・実施部会を検討する

尚、詳細は別紙発行される「帰宅困難者訓練提案書」のご案内をご参照ください

# 東災ボを支える仲間たち

連合東京 VST

連合東京 VSC

## 連合東京ボランティアサポートチーム

・連合東京ボランティアサポートセンターが目指すもの

連合東京は 95 年の阪神・淡路大震災をきっかけとして、災害ボランティアリーダー養成講座を 97 年 4 月からスタートしました。今年で 10 年を迎え、先日連合東京ボランティアサポートチーム（以下連合東京 VST）10 周年記念報告会を開催しました。報告会では、「連合東京 VST に期待する」と題して、元東京都副知事・現明治大学教授の青山やすしさんからの講演を受け、交流懇親会では、メンバーが一つになりこれからも続くことを期待し、最後は円陣を組んで大合唱で幕を閉じました。東災ボ参加団体の皆様も大勢参加していただき、心より感謝申し上げます。そこで、改めて連合東京 VST 及び連合東京ボランティアサポートセンター（以下連合東京 VSC）の活動についてご紹介します。



サポートチーム 10 周年記念パーティーでのヒトコマ



毎年 6 月に開催しているバーベキュー大会

連合東京 VST の研修は、年 10 回という長い期間をかけて行われます。内容は日赤東京都支部や東京消防庁のご協力により応急救護や炊き出し訓練の他、東災ボのノウハウを取り入れた、防災まち歩きなど、多岐にわたる研修内容となっています。研修修了後は連合東京 VSC に登録され、現在修了生は 600 名にもものぼっています。10 年もの間この活動が継続できたのは、メンバーが主体的に運営に関わっていること、また修了生が次期研修生のトレーナーとして指導にあたっており、一人ひとりがこの活動の意味を深く理解し、自主的に参加しているからです。従って東災ボが主催する（1.17 灯りのつどいや帰宅困難者徒歩帰宅訓練）にも積極的に参加協力させていただいています。私たちは決して災害対応や知識、ノウハウについて高度な技術を持っているわけではありませんが、互いに立場の違う仲間とも協働できる、そんなチームづくりを心がけています。おかげ様でこうした活動が序々に評価され、さまざまな研修に講師・トレーナーとして派遣させてもらっています。連合東京内にとどまらず、東災ボを通じてあらゆる分野で活躍の場があり、この間の取り組みが具体的な成果として現れています。

また、連合東京 VSC の独自活動の一つとして、毎年 6 月に障がい者の方とパーベキュー大会を開催しています。この行事も 10 年目となっており、車いすの方や視覚障がい者など総勢 100 名の方に参加いただいております。連合東京 VSC メンバーが車いすの方への送迎はもちろんのこと、食事介助なども行います。メンバーが実際に体験、経験することでその垣根を乗り越え、気持ちの交流をはかっています。今年も 6 月 2 日（土）11:00～立川昭和記念公園 パーベキューガーデンにて開催します。

連合東京 VST は 10 年を経過したことから、再度見直しをはかり、連合東京 VSC 運営委員会で検討しています。またこれからも東災ボの一員としてメンバー一人ひとりに声をかけ他団体の皆様とも一緒に活動できる、よい人間関係を築いていきたいと思っています。

連合東京 VSC 代表 真島明美

### 東災ボ 6 月の予定

- 6 月 05 日 帰宅困難者訓練事務局会議
- 6 月 09 日 東災ボ総会
- 6 月 11 日 TOSAIBOTIMES 編集会議
- 6 月 19 日 帰宅困難者訓練事務局会議
- 6 月 20or21 日  
帰宅困難者訓練実行委員会
- 6 月 25 日 東災ボ事務局会議

# 風の家通信

2000年の噴火災害から、東災ボが関わりを持ち続けている三宅島。現在、「みやげじま<風の家>」が開設され、高齢者、障がい者を中心に多くの島の方々が集まっています。TOSAIBO TIMESでは、隔月で<風の家>の近況をお知らせします。

## 「風の家」を訪ねて

連合東京 VST・全水道東京水道労働組合 丸林俊之

三宅島帰島支援ボランティアから2年、東水労のメンバーを中心に「風の家」訪問を企画しました。

私としては、磯釣り、島巡り(立ち枯れた山頂近くの風景、対照的なパードウォッチングと池の周りの散歩)など噴火前の島風景と現在を体感できたように思います。そして何よりも「風の家」を中心とした皆様との交流は、正直に予想を超えた深い感銘を受けました。

「風の家」訪問では、おばあちゃん達とカラオケなしのアカペラで大いに盛り上がりましたが、明るく楽しい普段のままの「風の家」を垣間見たような気がします。そして、夜の交流会では、心を閉じていた方の心が開きつつある話や風の家訪問を楽しみにしていたおばあちゃんの話。そして、親族の希望で「風の家葬」をおこなったことなど一つ一つの話が、決して特別のこととしてあるのではなく、「風の家」で聞くと自然なこととして聞こえてきました。そして、風の家に来る人は、特別優しい心の持ち主だけが集まっているのではない。だれでもが持つ心の優しさが共鳴し、「風の家」を作り出しているのではないかとの話が印象に残っています。たぶん、三宅島のゆったりとした時の流れと開け放たれた木の家が共鳴版となってこのような桃源郷を生み出しているのではないかと思います。そしてその発信源が、間違いなく坂上夫妻であることを確信しました。

東京でこのような空間を職場や地域で生み出していくのは容易なことではないと思いますが、東京は東京の条件の下でどのようなことができるのか、今後もみんなで追求していきたいと思っています。今回のツアーは、「風の家」訪問を中心に参加された皆さんの心の中に確実に何かが語りかけ、心を揺り動かしたと確信しています。私自身も本当に命と心の洗濯をさせていただいたと感謝しています。



三宅島で営農をされている方との集合写真

## 東京災害ボランティアネットワークとは？

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、1998年1月に設立されたボランティアネットワーク。災害救援活動や防災・減災活動、ボランティア団体やNPO団体に限らず、様々な形で様々な課題に向かって活動している団体が、災害前に「顔の見える関係」を構築していくことを目的としている。構成されている団体は、ボランティア団体・NPO団体をはじめ、労働団体、消費者団体、社会福祉団体、海外支援NGO、企業と多岐にわたる。

これまで1998年福島豪雨災害や2000年三宅島噴火災害、2004年新潟水害、新潟県中越地震、2005年三宅島帰島支援など、様々な被災地で被災地支援活動・被災者支援活動を展開。

また、各被災地で気づかれたことを東京での防災・減災活動に生かし、都道府県行政、市区町村行政、社会福祉協議会、企業、そして地域の学校・町会などの地域団体と共に、災害といのちとくらしを想像して、考えて、実践していく小さな「気づき」の取り組みを実施している。

2007年3月現在111の団体が参加。

## 東京の生協は三宅島との交流を深めています

東京都生活協同組合連合会 生原勇

東災ボの皆さんとともに取り組みました三宅島帰島支援事業が終了してまもなく3年目を迎えようとしています。島民の皆さんは<風の家>に集い、島にはゆったりとした時間が流れています。この間の東京の生協の取り組みをご紹介します。

### 医療部会事務長研修会

東京には17の医療生協があります。その医療生協の病院や診療書の事務長の皆さんが、昨年10月、三宅島で研修会を行ないました。研修は、村役場、社協、支庁から村の現況、特に医療、福祉関係の説明を受け、診療所や福祉施設を視察、翌日は<風の家>で島民のみなさんと交流、有益な研修を行なうことができました。



東京都三宅支庁にて

### 環境対策連絡会三宅島研修

東京の生協で環境対策を担当する責任者で構成する連絡会は、今年4月、三宅島で研修を行ないました。この研修は三宅島支援センターの上原事務局長の全面的なご協力を得て実施されました。研修は、砂防ダムや治山ダムの視察、平野村長との三宅島の環境対策についての意見を交換、農園視察など充実した内容で、大きな成果を得ました。



火山灰地に自然に生えたイタドリ幼木

### バルシステム連合会

#### 三宅村社協と<風の家>に支援カンパ贈呈

90万人の組合員が加入しているバルシステム連合会は、ポイント還元で三宅島支援カンパをよびかけたところ、640万円のカンパが寄せられ、5月18日、三宅島で贈呈式を行ないました。カンパは二分し、320万円ずつそれぞれに贈呈し、感謝の言葉をいただきました。

## 編集後記

東災ボ事務所開設から早いもので2ヶ月が経ちました。編集委員となった私も、事務所に訪ねる機会が多くなり、上原さん・福田さんから入れていただくコーヒーをすすりながらいろいろと情報収集しております。特にこの秋に企画している帰宅訓練は多くの皆さんが運営に関わっていただくことでよりよい訓練になると思っています。まずは多くの方に広めていただくことが大切です。そのためにも、是非一度事務所を訪ねてみてください。きっとおいしいコーヒーを入れて上原さんが待っていると思います。

尚、帰宅訓練の詳細は随時このTOSAIBO TIMESを通じて紹介して参ります。また、今後は東災ボに加盟する団体の紹介や告知なども入れながら皆さんに親しまれる紙面づくりを目指して頑張ります。皆さんもドシドシ投稿をお願いします。

真島明美(連合東京)